

【天の川】

銀河 銀漢

恒星の帯が北半球で秋に明るく美しい。歌では七夕が詠まれ、俳句では天の川の美しさが詠まれる。中国の牽牛と織女の伝説、乞巧奠、日本の棚機つ女信仰など、織りなす物語も豊富である。

東アジアの七夕伝説は牽牛と織女が天の川で隔てられて、年に一度だけ天の川を渡って会える。猪八戒が玉帝より天の川の管理を任される。ギリシャ神話では、女神ヘラの母乳が流れて環になった。英語のミルキーウェイもこの神話に由来する。

天文学的には膨大な数の恒星集団であると理解され、我々の太陽系は、数多くある銀河の中の「天の川銀河」にある。天の川銀河の中から、私たちはそれを天球上の帯であると見ている。天の川の暗い部分は暗黒星雲であり、それを蛙や蛇に見立てる民族もある。

天の川銀河の中心は、射手座の方向にあり、地球から約三万光年の所に位置する。そこには「射手座A」という強い電波源があつて、その中心部には超大質量のブラックホールが存在している。銀河系の直径は八万から一〇万光年、太陽は銀河中心から三万光年前後にある。牽牛のアルタイルは地球から一七光年、織女のベガは地球から二五光年、ともに近いので大きく見える。天の川を見上げて、このような三次元構造を思い浮かべるのも、脳の体操にいいかもしれない。